

One time, One meeting

一期一会。未来も過去も、
すべては現在の出会いに通じている。
その“出会い”から始まるストーリーを、
福島県郡山市でワイナリーを立ち上げ、
地域振興に奮闘してきた三菱商事社員の
立石亮さんをお届けします。



From
三菱商事
サステナビリティ・CSR部
立石亮

農家のみなさんとの出会いが 新しい道を照らしてくれた

【監修】 *The Asahi Shimbun*
GLOBE+

私は今、気候変動問題に関する施策の
企画に携わっています。複雑な要素が絡
み合う地球規模の難問ですが、自分が出
会い、縁を結んだ一人ひとりのために行
動することが、この問題の解決につなが
ると信じています。

そう思うようになった原点が、東日本大
震災の復興支援の一環で、郡山の農家の
方々とワイナリーを立ち上げた経験です。
持続可能な新しい産業づくりを目指すこ
のプロジェクトは、初めての試みだけに課
題だらけでした。

最初に苦労したのは、地元の方の信頼
を得ること。ワイナリー事業を地場で未
永く続けていくためには、現地農家のみな
さんにパートナーとなっていていただき、主体的
に関わってもらうことが必要です。見知ら
ぬ人間が突然やってきて、「ワイナリーを



立ち上げたい]などと言っても、信用しても
られません。私たちは郡山に移り住み、何
度も訪問を重ね、ねばり強く自分たちの思
いを伝えました。やがて少しずつ協力いた
だける方が現れました。その後も課題は山
積みでしたが、一つひとつ乗り越えていく
なかで、地元の方との絆も深まっていった
ように思います。

苦労の末に迎えた商品発表会での、ある
方の言葉が忘れられません。「子どもと孫が
誕生した日、そして自分の果物のできたお酒
を味わえた日。今日は人生で3度目に心が



震えた日だ」。私も感動で身震いしました。

その後、このような事業を持続可能な形
にする力をつけたいと思い必死に勉強を
し、後ろ髪をひかれる思いでしたが、アメリ
カへMBA留学をする決意をしました。郡山
のみなさんは、まるで故郷の代表を世界へ
送り出すかのように喜んでくれました。海
外の学友にワイナリーを紹介するために
郡山を訪れたときは、我が子が帰省した
かのように、温かく迎え入れてくれました。
みんなでこたつを囲み、お酒を飲みなが
ら語り合った時間は、一生の宝ものです。

どんな難題も関わった人と深い信頼関
係を築き、一人ひとりの声に耳を傾け、
ニーズに応じていく。そんな地道な取り組
みの積み重ねによって必ず道は開かれ
る。郡山で学んだこの思いを胸に、これか
らの仕事にも取り組んでいきます。



「ふくしま逢瀬ワイナリー」

明治時代、猪苗代湖から水を引くために全
国から人や物、技を集めて完成した安積疏
水。この事業によって礎が築かれた郡山には、
昔から多様性を受け入れる土壌がある。そん
な地に復興のシンボルとして2015年にオー
プンした「ふくしま逢瀬ワイナリー」では、福島
の果物からお酒を造り販売している（新型コ
ロナウイルスの影響で臨時休業しています。最
新の情報はHP <https://ousewinery.jp/>へ）。

「One time, One meeting」の
オリジナル記事は
GLOBE+でご覧頂けます。



<https://globe.asahi.com/brand/mitsubishicorp/2020>